

熊坂

昭和改訂版
内三

特260

870

6 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

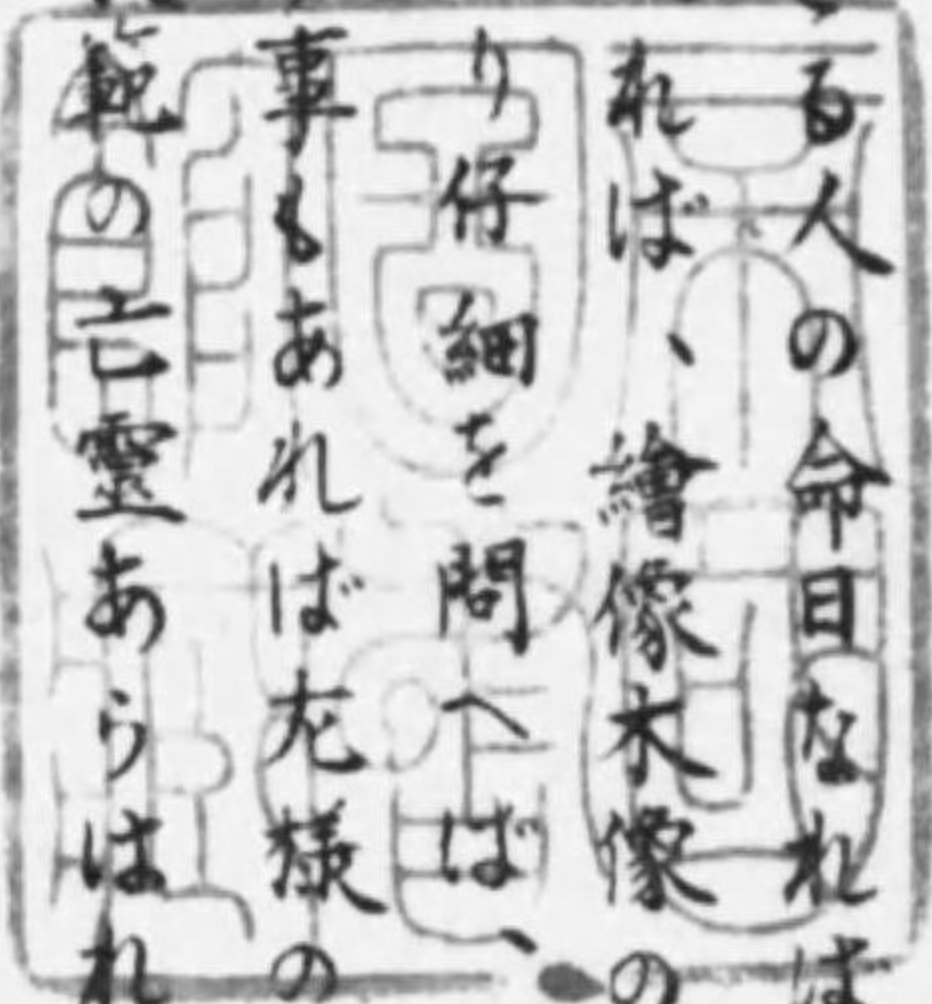
始



3
1

熊坂

(梗概) 都の僧東國修行の途次、赤阪の宿にて一人の僧に出會ひ、今日
 はまゝ人の命日なれば弔ひ賜はれとのことに訝しと思ひ乍ら其の庵室
 に入れば、繪像木像の形はなく大長刀、金棒その他の兵具を軒と立て並
 べあり仔細を問へば、此の邊りハ山賊夜盜の巢窟にて往き來の味を
 かす事もあれば尤様の時の用具なりなど物語りぬ、其の夜更關地を
 坂長靴の亡靈ありはれ、長刀を振りかざして牛若と渡り合ひたる時の
 有様を審さに語り末の世を助け給へと言ひつと松蔭に隠れ失せにけり



シテ 僧
 後シテ 熊坂長範
 ワキ 旅僧
 所 美濃國赤坂
 季 秋

熊坂

わき 赤坂
禾上
 うーとさしてひて捨る身のくゆく境や
てん
詞
 いつとさくむしん 是の都方より出るは
 僧よこひ我來東國をるんばは程よ世度
上
 思ひ立来必終行と志ひ歩ゆふ處く
の
 のうり枕が 着るあまのしほりしまはま

ほ

同下浮祿乃若法乃國若世が染り
若ふたり〜
以傳よ中へき事此はあまおたのの事は
ゆう何事あてはぞ してかゝる若此今日
みくひ、送縁あづら甲ひては通ひゆく
安き間乃、あま中事みくひ、お誰とんま〜

回向中ゆへま して此屋を修らるゝの
あまにんじんは一本の松乃が〜ま
のカゼ草葉一そ、唯今中者此古墳たなま
あふ媽〜な〜祿バ中あり あまあ〜何とも
なや誰たなまをま〜て回向い〜形〜ん
よ〜それと〜い〜る〜かゝるま〜法界院

生平等利益わきま 出離生死しんじをしてこをあれ

よと乃 出離しんじひをあらうけばくただ

とひをあらうるのにととも更にばられ

丁我ぬよみ難や回向を尋求本國去ま

でもしはなればまたてせぬにとん

あて何んばそまじ我を回向なれうりまでハ

いうみまきわきま 早あまよ入ては程よ海とあ

を初めのままるにては不也伎やか持仏堂

に系りてゆへ安坐し終めまき繪像本像

此らもなく一盤まハ大長刀檀杖よシユデヤウ

あらるる祿の棒を外具をむと

立て居りては何と申すたる事みてはぞ

思ふ斗の一念也なんがう浅ましくた世
を捨もの志んやう催そ 曲下 支院な
きまぐら 日 ぬ僧の腕ぶそけし我
おうとれるに説去なぐら佛も孫陀
乃利釵や毫深ハ方便の弓み矢をた
め多門を絆をよこして悪魔を降伏

解

四

一災難を拂ひ除へり 上 さまきバ毫若
慈悲心 日 たりたぐみ送よまぐまき方便の
殺せハ菩薩のたなふはまされ里とら
をえん 下 さまき 下 ぬ 下 せ 下 志 下 ぬ 下 身 下 乃
行清 下 さま 下 悟 下 る 下 も 下 ん 下 ぞ 下 や 下 は 下 ま 下 ぶ 下 ん 下 此
所 下 と 下 ら 下 ぬ 下 れ 下 心 下 を 下 師 下 と 下 せ 下 ざ 下 れ 下 と 下 古 下 き 下 ら 下 初 下 小

解

下

志キヤラいチまシつフつトりト振シのト物シ語シのト中トナシぶシあシも
 あシけシあシまシしシおシやシあシあシまシあシやシおシ僧シをシ我シ
 もシ海シらシうシまシんシはシらシぶシとシ眠シ花シよシ入シよシあシらシんシ
 つシるシりシ形シもシ失シてシ庵シ室シもシ草シ村シとシなシりシて
 松シ陰シよシあシをシあシるシけシるシふシしシまシはシらシんシ中シ入シ
 春シ風シをシあシけシるシ乃シづシ草シ花シらシりシ緑シの
わき上

床シとシふシはシ法シをシ那シしてシあシもシまシらシらシ
 彼シ初シとシあシぞシあシ難シきシくシ出シ羽シ東シ南シふシ
 風シとシのシあシあシよシ雲シ静シをシくシたシなシとシ
 のシ東シ風シをシげシきシ山シ陰シよシ日シ精シ來シ乃シ間シ
 やシさシさシくシ後シ在シ的シさシらシりシしシつシしシうシふシ
大カ月シハシ出シくシもシ勝シ兼シなシるシべシしシりシ入シせシ免シ
同上

よと前後を下知一りや馬車一
ふをくたつこ人の家をも棄ひ一
逆安は安乃物ふ是は境せよ後ま一や

あは熊坂の長流よく浦一まふや昔
此は物色よは物語ゆ一 家よ二条の
吉次信言とくまぐ祿をあまふ高人

あつてききき造て果へ下るあつたれ

是をいひつらふよふ力此人数い誰とぞ

あまの国より集り一申よとりてこと江

別よハ かりちれくせう措をまぢあす

兄弟ハ目牛一の劉乃者面うちよあ

びな一 わま上 ね又都乃生肉よ多き中一

あしたぐあしぞ 三條の右衛門の
いさふ 火ともーのよふかりよ
そまほうへいふもあうー ねお國よ
越あのを あそふのねあ、三國北九席
か賀北國よ、終坂北 け長花を始ぬ
としてくまあうの手扱乃、置入ホ七十余

人ふかして 吉だぐ通る乃、さぐ、野
みと山よも宿泊りよ、目分をつけ、是
をいませ け赤坂の宿よつ、く、愛よ、我
くまあうのあまき、に場も何の方よ道
多ーこれが音い、ま、押、あ、入、す、す、く
の押、ひ、時、を、福、ま、せ、あ、も、更、ぬ、れ、が、吉、だ

兄貴前後も志しは仰たりしふ
十
六七の小男の目此内人よまぐれたるの
隣子乃透回物あひのそよまをさるをん
ふの言てあま少しも好まてあまは
牛の殿とハるあも志しは
軍のつ
まぬる置人等 機嫌よたぞ
ちや

入とスレ上日上しふし特程も久しとれキ皆我
さためと松明を投さぬく札入いま
をひらやうをく神も面成むくべきやう
そなきヤア持まを牛若子ト少し松そは
氣多なく小太刀をぬいて流りあひヤア柳
子シ急シ席コ札入ラ飛鳥のかあり乃手ニを

碎手。素戔嗚尊。戦へば。あはれ。を。表り。ま。む。
十三人。同。し。枕。子。切。体。し。き。せ。外。手。肩。
ち。か。を。控。具。足。を。う。だ。ま。き。を。う。く。迹。
今。斗。り。を。道。る。も。あ。能。坂。い。ふ。や。う。
け。者。だ。を。手。の。下。お。討。は。い。く。指。鬼。神。の。
人。間。あ。ら。は。よ。も。あ。ら。し。ぬ。ま。み。も。命。此。
ヤラハ ヤラ ヤラ ヤラ ヤラ ヤラ ヤラ

あ。て。し。我。あ。ら。志。よ。あ。や。ひ。う。ん。と。て。長。刀。
杖。よ。つ。き。う。ら。め。さ。く。も。引。あ。は。が。り。
能。坂。思。ふ。や。う。く。物。を。一。冠。者。が。
切。と。い。ふ。を。さ。そ。有。ら。ん。能。坂。秘。術。を。揮。
あ。ら。ば。い。う。成。天。魔。鬼。神。あ。り。を。宙。よ。つ。
う。ん。ぞ。微。甚。よ。ま。り。討。れ。よ。る。者。せ。の。い。で。
ヤラ ヤラ ヤラ ヤラ ヤラ ヤラ ヤラ

孝^{キヤウ}孝^{キヤウ}の^ノ長^{チヤウ}刀^{トウ}を^ヲ報^{ホウ}ぜ^ンん^トと^シて^シ乃^ハよ^リ取^リて^シる^ル
 例^{レイ}の^ノ長^{チヤウ}刀^{トウ}を^ヲ報^{ホウ}ぜ^ンん^トと^シて^シ乃^ハよ^リ取^リて^シる^ル
 て^シよ^クも^トの^ノ彼^カ小^コ男^{オウ}を^ヲ祿^{ロク}し^ヒり^テ牛^{ウシ}養^{ヤウ}子^シ
 を^ヲ以^ヨて^シ後^コに^テ大^{ダイ}刀^{トウ}ぬ^キき^テそ^ノを^ヲめ^シ物^{モノ}あ^ハひ^を
 が^ラ一^ト端^ヘで^シ待^マた^スふ^ニ熊^{クマ}坂^カも^ト長^{チヤウ}刀^{トウ}持^チ入^ルよ^に
 ぬ^キる^ヲ持^チた^スふ^ニい^ハら^ズ熊^{クマ}坂^カも^ト長^{チヤウ}刀^{トウ}持^チ入^ルよ^に
 ぬ^キる^ヲ持^チた^スふ^ニい^ハら^ズ熊^{クマ}坂^カも^ト長^{チヤウ}刀^{トウ}持^チ入^ルよ^に

又^{マタ}決^{ケツ}断^ツも^ト通^ツき^と突^ツき^長刀^{トウ}を^ヲた^シり^と
 う^ツつ^とら^ず手^ヲ入^レせ^ば追^ツき^ます^とま^らず^と
 長^{チヤウ}刀^{トウ}を^ヲむ^きし^ます^の事^ヲバ^カら^しめ^ます^をあ^し
 志^シす^のて^シひ^けば^馬車^ヲ入^レす^を追^ツ取^ル也^ト
 して^シち^やや^うと^きれ^ば寅^ト子^ヲて^シ結^ツぶ^をほ^す
 ぞ^とも^もふ^く入^つつ^と拂^ハら^ず飛^ハあ^ぐり^て其^ノ

まゝいんいさ形も失くスレてト思ひシてセい
るぬる所は思ひもよぬ後より具足
此透るをちやうとまされヤアばトいふハ彼
冠者よ切る軍の服ヤアもセちハはトいハた
天命の軍に極めぞ無念なるカ赤物
業まで付ふはキくキ手取ハせんト連

薙刀投擲大ををひろげ愛乃めんり
うかこのつまりに追々事追詰取ん
とまきだる軍ろふ編妻キあキ月々屋
あゝいんきいもあヤいセきト次
舟くヤいセいハおキひトぬキたキちハん
かも弱りキよキりキ行キくキけキねキがキ根キのキ

下
 苦乃亦欲而柔と消し首此物語来乃世
 助けよび終へと由あつ幸も告り了し海
 夜も志くしくと赤坂乃松陰よりく幸
 々里松陰より我らかく幸をれ

昭和九年八月廿五日印刷
 昭和九年八月三十日發行

定價金五拾錢

著者所有

東京市下谷區上根岸町八十二番地
 著者 寶生 新

東京市京橋區銀座西六丁目三番地
 發行兼印刷者 江島 伊兵衛

發行所 下掛寶生流謠本刊行會

終

